

農事組合法人  
加茂ファーム  
愛媛県西予市

## 基本情報

- 愛媛県の南部中央に位置し、標高200mの宇和盆地
- 普通灰色低地土・細粒質土壌
- 従事人数8名(雇用3名)
- 臨時雇用4名
- 飼料稲の作付開始：H23年度

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	4.7ha	20a
飼料稲(移植)	5.2ha	20a
麦類	9.4ha	—
大豆	7.9ha	—
野菜他	9.5ha	—

## 経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- 主食用米から飼料用米等の非主食米を拡大することで経営の安定化を図る(H27年度から飼料用米(愛媛県育成「媛育71号」)実証)
- 野菜等の高収益作物を導入し、周年栽培を目指す
- 主食用米(「コシヒカリ」、「とねのめぐみ」と飼料稲(「たちあやか」、「たちすずか」)は品種で作期分散を実施
- 機械化による省力技術や低コスト資材の導入により経営コスト削減の取組

## 稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

### ・ 肥料

育苗箱全量施肥 (H26年度)

①取組概要 水稻移植苗9.9ha、1,600枚の育苗  
(主食用米4.7ha、飼料稲5.2ha)

②資材費概要

- ・導入技術：育苗箱全量施肥 合計6,228円/10a
- ・慣行：基肥一発施肥 合計8,835円/10a

※飼料稲の施肥量は主食用米の約10%増

養鶏業者との連携

①取組概要 地域内養鶏農家との連携により、鶏糞を無償譲渡

②資材費概要 散布料(500円/10a)のみ負担

※鶏糞施用時期は11~12月

- ・鶏糞の追加により従来の基肥一発施肥と同等の収量・品質確保
- ・育苗箱全量施肥では、育苗時の乾燥と温度管理に注意

## 導入効果

- ・ 施肥  
肥料費 ▲約3割  
労働時間 ▲約2割  
(基肥一発施肥との比較)

## 支援体制

- ・普及やJA、肥料メーカーが技術情報を提供
- ・3年間実証圃を設置し、関係機関が効果の検証を行いながら実用性を確認
- ・関係機関は連携して、課題のフィードバックと成果の普及・PRに取組

## 課題・今後の目標

- ・土壌診断に基づく、適切なりん酸、加里施用の検討

育苗箱全量施肥の肥料の投入と覆土

